

## 第2回品川区基本構想等策定委員会 議事概要

日時：平成19年7月18日 13:30～15:00

場所：品川区役所議会棟第1委員会室

### 議事次第

1. 開会
2. 委員長挨拶

#### \* 前回欠席された委員の自己紹介

- ・健康づくり推進協議会の会長、区内自治会の代表を務めている。
- ・これまで健康づくり推進協議会では、区民が健康で暮らすことができるよう活動するとともに、住み良い品川を目指した取り組みを行ってきた。

#### 3. 区政を取り巻く環境の変化と新たな課題について（資料に基づき事務局より説明）

##### 委員長

- ・区内には延べ40駅、実質33駅が立地していると説明があったが、「延べ」と「実質」の整理の違いについてご説明頂きたい。

##### 事務局

- ・鉄道路線別に駅数を集計したものが延べ数である。例えば、大井町駅には3路線の駅があるため、延べ数では3駅、実質では1駅とカウントしている。

#### 4. 品川区の将来人口の推計結果について（資料に基づき事務局より説明）

##### 委員長

- ・これまで、昼間人口について推計を実施したことはあるか。

##### 事務局

- ・昼間人口を対象に推計を行ったことはない。

#### 5. 区民アンケート結果について（資料に基づき事務局より説明）

##### 委員

- ・現行計画は5地区、また、区のコミュニティは13地区に区分されている。今回のアンケート集計における地区分けの考え方についてご説明頂きたい。

事務局

- ・まずは詳細に分析するため、区内を9区分し分析を行っている。今後、荏原や大井を一体的に整理し、5地区分とする予定である。

委員

- ・人口推計の資料には地区別の推計が記載されていないため、地区別の推計結果も示して頂きたい。

事務局

- ・別途、地区別推計は実施しているため、次回資料として示すこととしたい。

## 6．第三次長期基本計画について（資料に基づき事務局より説明）

### 7．意見交換

委員長

- ・今回の委員会は地域の現状に対する認識を共有するため、事務局からの説明が中心となった。基本構想において重点的に取り組むべき点、それに対して各主体が行うべき点について意見を頂きたい。
- ・基本構想は基本計画よりも長期間を対象とするものの、社会動向の変化を予測した上で各種指標を設け、計画的に行政を推進させていくためには、30年以上の期間を対象期間と定めることは現実的には難しい。そこで、20年ぶりの更新となる現行構想と同様、新構想も20年を対象期間とすることが妥当ではないかと考えている。

委員

- ・本委員会の配付資料を前もって郵送して頂いたが、手元に届いたのが昨日の夜であったため、以後はなるべく早く送って頂きたい。

委員長

- ・今後は数日前には手元に届くように手配したい。

副委員長

- ・A3版の資料は机上で広げにくいので、A4版で見やすくして頂きたい。

委員

- ・網掛けの部分は文字が読みにくくなっているため、今後、ご配慮頂きたい。

委員

- ・区政や区の現状に関する資料が多く配られたのは良いが、一方、どこに重点があるのか、どの点が重要なのか分かりにくくなっている。今後は、重要なポイント、周知の点等、分類して示して頂きたい。

委員長

- ・ご指摘頂いた点については、今後の資料作成における留意点としたい。
- ・今後の委員会運営について、区事務局の説明が中心となるよりも、各委員の生活に根ざした実感を中心に議論を行い、それに対する関連データを事務局が示すような形にして

いきたいと考えている。

委員

- ・子育てガイドブックの作成作業では、実際に区内を踏査した結果に基づいて、品川／大井・八潮／五反田・大崎／荏原・戸越の4地区に分類することで、地区特性を的確に把握することができた。このように、地区特性を踏まえた区分から現状を把握することも良いのではないか。

委員長

- ・地区区分についても、今後、検討していくこととしたい。

委員

- ・今日、コミュニティの崩壊が大きな課題となっている。
- ・配付資料のなかでは、コミュニティをベースに各種取り組みを進めていく姿勢が伺えるが、まずは、どのようにコミュニティを活性化させていくか検討することが必要である。
- ・防災上の観点からは密集市街地の改善が求められているが、コミュニティの観点から見れば密集市街地がその基盤になっている可能性もある。また、教育の観点から学校選択制がとられているが、こうした制度や私立学校への通学者の増加等により、子どもの地域コミュニティに対する意識の変化が見られるのではないか。コミュニティの活性化を考える際、こうした他の施策との兼ね合いや状況を踏まえて、コミュニティの基礎として既存の地域コミュニティを活用するのか、それとも何らかのテーマ等に集う人々のコミュニティを構築するのかといった検討も必要である。

委員

- ・国勢調査への回答協力が得られにくくなっていることから、地域コミュニティの弱体化の問題は実感している。
- ・子どもの小さい若い世帯が増加しており、地域の子育て環境についても、一体的に考える必要があるのではないか。

委員

- ・テレビ番組において、欧米では町の広場に年配の人が集い、語らう場面を見ることがある。日本には、そのように人が集う場が少ないのではないか。

委員

- ・夜間住民の地域に対する帰属意識の低下に加え、昼間人口が多いという現状を踏まえて、CSR等の企業の地域に対する関与や昼間住民の地域に対するスタンスについて、区としてどのように働きかけていくのか議論を行う必要がある。

委員

- ・資料を読み、本委員会において重点的に議論する論点として、子育て、高齢者・介護、商店街、治安・防災があるように感じた。また、これらの点は地域コミュニティに関連するものでもある。
- ・アンケート調査結果から、簡易なボランティア、身近な商店街利用等を含め、区内には

地域に対する帰属意識がまだ残っていると感じた。また、緑地やオープンスペースの確保が求められているとともに、今後、人が集い世代間交流を図る場、子どもが遊べる場づくりを進めていければ良いのではないかと感じた。

副委員長

- ・ 課題の分野が広く、このままでは議論することが難しいため、分野間で重複する対象を整理する必要がある。例えば介護予防では、被介護者だけでなく、一般の健康な区民も対象に含めるか等、対象の明確化を図る必要がある。
- ・ 高齢者の福祉、相互扶助においては、地域コミュニティが重要な役割を果たすが、実際にそれらが必要なときにコミュニティは機能するのか、また、コミュニティとはそもそも何を指すのか具体化しておく必要がある。
- ・ 品川区には 13 地区ごとに自治会の活動拠点がある。この拠点をどのように活用していくか、という点が地域コミュニティの活性化の課題の一つではないかと感じている。
- ・ 政策分野の分類において、「産業」という括りをたてた場合、日本では製造業が産業分野の中心になりがちなため、「産業・商業」としてはどうか。

委員長

- ・ 地域力、コミュニティは、今後、政策を展開していく上で重要な要素であり、核となるものである。
- ・ 第 1 の分権化（国から都道府県への分権）、第 2 の分権化（都道府県から市区町村への分権）、第 3 の分権化（市区町村から地域への分権）といわれるが、現行構想にはこの第 3 の分権化の視点は盛り込まれておらず、新構想ではその点が重要な意味を持つ。
- ・ 品川区の昼夜間人口比は約 1.5 倍となっており、都心としての中心性の高さが伺える。
- ・ CSR は企業の社会的責任としての地域への関与の 1 つの形であるが、このほか、昼間住民が地域に関与する方策も重要である。
- ・ アンケート結果にもあるように、水と緑の整備は今後の課題になると思われる。

8 . その他

9 . 今後のスケジュールについて

- ・ 次回委員会は 8 月 31 日、14 時から行うものとする。

10 . 閉会

以上